

幼・保・小間の子ども達の発達や学びの連続性

— つなげよう幼保の育ちを小学校の教育活動へ —

教科・領域		算数	国語	生活	音楽	図工	体育	道徳	特活
小学校	教科・領域を通しての指導 一年生の学習活動例	国語 ・あいうえおのうた ・ことばであそぼう	算数 ・なかまあつめ ・いくつといく ・ふえたりへったり	体育 ・表現、リズム遊び ・水遊び	道徳 ・たのしいがっこう ・よいみち ・みんなのもの				
		音楽 ・うたってあそぼう ・たのしいリズムであそぼう	生活 ・ともだちいっぱい ・がっこうたんけん ・きれいなはなをさかそう	図工 ・おはなしこうさく ・どろどろえのぐ ・きれいなもよう	特活等 ・学校行事 ・健康、安全指導 ・生活指導 ・学級活動 ・基本的生活習慣				
幼稚園や保育所との交流・連携活動・指導計画の接続									

幼小の段差の解消

滑らかな接続

全ての領域を総合した遊びを通しての活動

幼稚園	遊びを通しての総合的指導 5歳児の活動例	砂遊び ・仲間と一緒に、ヒューム管やホース等を使いイメージを出し合いながら遊ぶ。	色水づくり ・身近な所で色が出るものを探しいろいろな色水を作る。色水を使ってお店屋さんごっこをする。	子ども会 ・学級のみんなで楽しめるように自分の思いや友だちの思いを受け入れたり調整したりして表現活動をする。		
						
領域		健康	人間関係	環境	言語	表現

幼小連携を支援します

全国連合小学校長会 会長 角田元良

今、幼児教育と小学校教育の連携が、時代の要請として求められています。小学校の様々な課題も「子どもの発達や学びの連続性」から考え、実践していくことで解決できることも少なくありません。国公幼の呼びかけに応じ、全国の各小学校でも幼小連携に一歩踏み出してみませんか。

発行者・連絡先

発行日 — 平成17年2月
 発行者 — 全国国公立幼稚園長会
 会長 酒井幸子
 連絡先 — 全国国公立幼稚園長会事務局
 住所 — 〒113-0034 東京都文京区湯島1-5-28
 電話 — 03-5684-2240
 FAX — 03-5684-2174
 e-mail — entyukai@kokkoyo.com

交流や連携の推進を

全国国公立幼稚園長会

双方の「初めの一步」から

これまで、幼児教育から小学校低学年の教育への滑らかな接続は大きな課題でした。中央教育審議会では、義務教育に接続するものとしての幼児教育について、初等中等教育分科会に幼児教育部会を設置し審議してきました。平成17年1月には、「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」として答申が出されました。

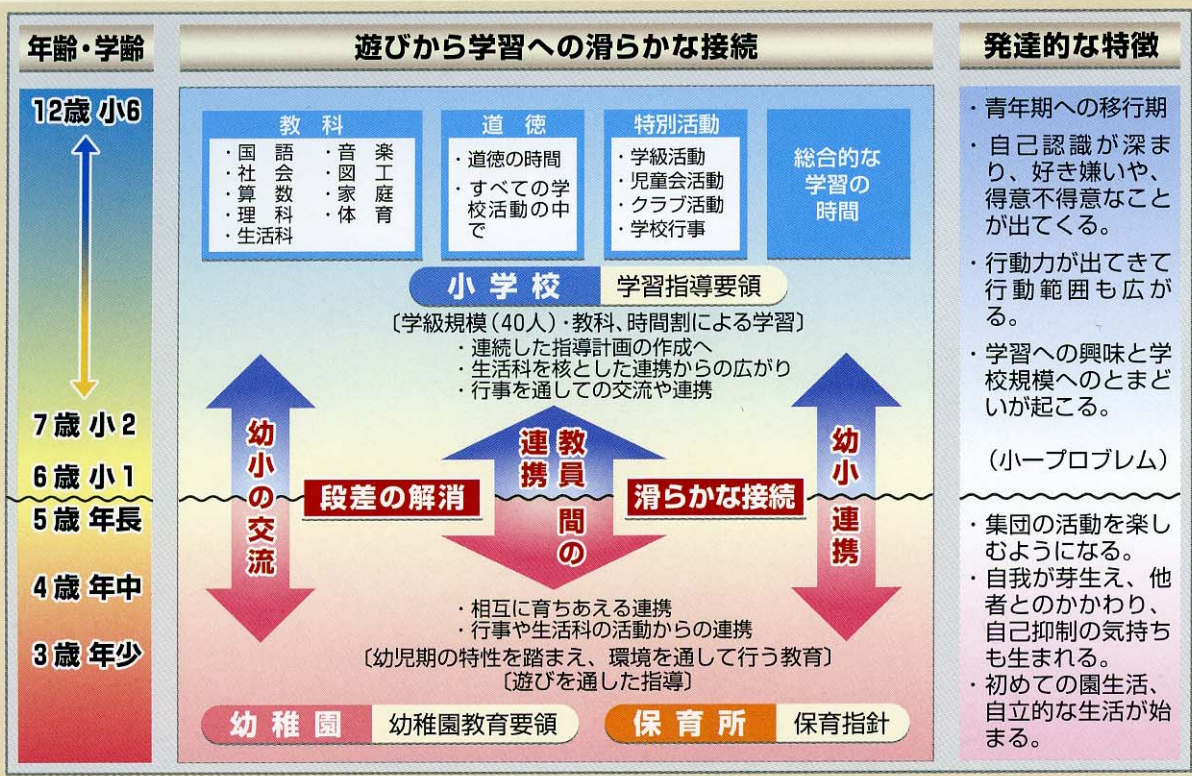
その答申の中で、小学校教育との連携・接続の強化・改善が提言されています。「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行を目指し、幼稚園等施設と小学校との連携を強化する。特に、子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から、連携・接続を通じた幼児教育と小学校教育双方の質の向上を図る。具体的には、幼児教育における教育内容、指導方法等の改善等を通じて生きる力の基礎となる幼児教育の成果を小学校教育に効果的に取り入れる。」とあります。

幼小連携の掛け声はよく聞かれますが、実績を伴った幼小連携は推進されてきませんでした。しかし、生活科の誕生は、幼稚園と小学校の段差を少しずつ解消してきました。

幼児期は、遊びや人とのかかわりを通して、自発性や自主性、そして、様々な小学校への学習への芽を育てることが大切です。これらの力を小学校と連携して育てていくことが重要と考えています。

今こそ、答申にある「子どもの発達や学びの連続性」という観点からも、幼小の連携を更に推進すべき時と考えます。そのためには、まず一步を踏み出してみることが大切です。小学校側からは、近くの公立や私立の幼稚園や保育所との交流から始めませんか。幼稚園や保育所側からは近くの小学校に声掛けをしたいと考えます。

初めは、行事への招待や参加からのスタート、そして、すでに生活科等での交流の実践が始まっている地域では、生活科を核にしてさらに小学校の教育活動全体への連携・接続へと発展していくことが望まれます。日本全国で、幼稚園や保育所と小学校の連携が進めば、様々な課題が解決できるものと考えます。まずは、「初めの一步」から交流や連携を推進していきましょう。



今なぜ幼小連携か

白梅学園短期大学 学長 無藤 隆

幼児教育の成果をどのようにして小学校教育に伝え、生かしていったらよいのでしょうか。そのためには、子ども同士が交流し互いに刺激し合えること、教師同士が交流し互いの教育のあり方について相互理解を進めること、幼稚園と小学校をつなぐ教育課程の筋道を作ること

などが必要です。幼稚園と小学校の間には、これまで、子どもの間の日頃の付き合いにも、教師の互いの指導法への理解にも、カリキュラムにも断絶がありました。そうではなく、小学校は幼児教育の中で育ててきた子どもの力をさらに伸ばすのですし、幼稚園は小学校以降への発展の基盤の形成を意識するのです。幼児期の自己と人間関係の育ち、学びの芽生え、協力的な学習活動等をさらに小学校で発展させてほしいものです。

行事を通して

運動会、音楽会、学芸会、展覧会、遠足、集会等々、さまざまな行事を通して、幼・小の交流・連携を図ることができます。また、PTA同士の交流を促す機会になります。

● 幼児が小学校の運動会に参加

幼稚園児が、小学生の演技を見て憧れ、運動会ごっこなどの遊びのきっかけとなります。

児童にとっても、幼児の前で演技することにより、表現力の向上、自制心やリーダーシップなどの育成に結びつきます。

保護者や地域にとって、子どもの発達の道筋を理解する機会になります。小学校にとっては、小学校の保護者だけではなく、より広く教育活動を知らせる機会にすることができます。



● 幼稚園児と一緒に遠足

小学生が幼稚園児の手を取って歩くことにより、園児の安全に気を配るなどの思いやりの心や、優しい言葉遣いを意識する機会にもなり、他者理解が深まります。

5年生と年長組の遠足は、次年度の6年生と新入生の関係づくりへの準備にもなります。

交流・連携を拓

- 子どもたちに思いやりの心が育
- 互いに親しみ、仲間関係が広が
- 幼児・児童の発達により、教員が高められます。
- 幼小の滑らかな接続が図られま
- 新入学児童の小学校応がスムーズに

生活科や「総合的な学習の時間」を通して

● おいもパーティーをしよう(生活科)

2年生が生活科でいもほりをし、幼児を招待しました。児童にとっては、ゲームや歌などの交流、会食等を通して自己の成長の気付きにつながります。

教員にとっては、交流の打ち合わせを通して、子どもの発達を見つめなおしたり、2年生のよさを再発見したりすることにつながります。



● 町を花でいっぱいにして

4年生が「総合」でまちをきれいにしようと計画し、育てた花の苗を公園や街角に移植しました。幼稚園や保育所にも分けました。児童が自己有用感を感じる時です。事後の様子を見に行くことや、水やりなどを通して幼・保・小の継続的な交流に発展していきます。

教科を通して



● ミニコンサートをしよう(音楽科)

児童が、合奏曲を仕上げた満足感からさらに発展し、ミニコンサートを開き、幼児に披露しました。

こうした自己発揮の機会を通して、学習意欲が高まったり、表現力や技術が向上したりします。また、奉仕的な心が育ってきます。幼児にとってはよい目標ができ、遊びの質が高まります。



● 本を読んであげよう(国語科)

高学年の児童が、国語の学習の発展として、幼児に読み聞かせを行っています。

進捗することで

様々な気づきや思
がわちます。

年齢をこえての
あります。

発達段階を知るこ
師の子ども理解が

なカリキュラムの
す。

小学校生活への適
図られます。



教職員同士の交流を通して

● 小学校の先生の出前授業 (養護教諭の歯磨き指導)

養護教諭が幼稚園の保護者・園児に歯磨き指導を行っています。幼児への指導を通して教材研究をさらに深めたり、話し方の工夫をしたり、専門性を高めたりする機会になります。音楽や図工の先生にも出前授業の声がかかり、子どもの発達を見据えた授業改善へとつながります。

● 研修・研究会への参加

園長・校長間の理解を深め合うことで、校長・園長のリーダーシップの下に、幼・小の職員間の交流もさらに進みます。小学校にとっては、幼稚園における遊びを中心とした活動から指導方法の幅を広げたり、子どもの9年間の発達を見据えた系統性のある指導により授業改善を進めることができます。

さらに、教務主任会、生活指導主任会、研究主任会での活動など、交流・連携の場を広げていくことができます。



現在、小学校教諭で幼稚園教諭の免許を持っている教員が期限付きで幼稚園に赴任するなどの人事交流を行っているところがあります。また、中央教育審議会・幼児教育部会においても幼稚園等施設と小学校の双方において、相互の経験を有する者を活用することや、人事交流を推進するなどの施策を通じて、より一層双方の教育の質を高める必要があると、指摘しています。